

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100549		
法人名	とっとり福祉サービス有限会社		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム三希堂		
所在地	鳥取県鳥取市行徳二丁目四四五番地一		
自己評価作成日	令和6年11月21日	評価結果市町村受理日	令和7年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=33690
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	令和6年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の個性を尊重し、今まで出来てきたことが継続して行えるように支援をするように努めています。
家庭的な雰囲気やゆったりとした雰囲気の中安心して生活が送れるように環境を整えています。
住宅街の中に位置していますが隣には緑地公園があり窓から見える木々が季節の移り変わりが感じられます。
利用者様、ご家族の要望や希望に寄り添い、その人に合ったプランを立案しサービスを提供を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市街地中心部の住宅街の中に位置し、隣には緑地公園があります。地域や家庭との結びつきを重視され、今までと変わらない家庭的な雰囲気の中で生活できることを目指し支援に繋がられています。一人ひとりの個性を大切にし、親しみの中にも尊敬を持って対応されていることが伝わりました。
尚、施設内はエレベーターが設置され、1階と2階の行き来がスムーズに出来る他、夜勤は1階と2階の2人体制で行なわれ手厚い介護体制を取られています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に当法人の理念を掲示して職員・入居者様が理念を共有して、職員は理念の実践を常に心がけている。	理念は玄関・リビング・エレベーター等 随所に掲示され、職員は、利用者・家族の目線で、日々のかかわりを振り返りされながら理念の実践に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や体操への参加を行っている。定期的にボランティアの方が歌や踊りを披露してくれている。	町内会に加入され、一斉清掃、ラジオ体操等、町内会行事に参加されている。スタッフ自ら町内の方々に声かけし、日頃から交流を図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア活動や来所された方の認知症に関する相談には応じている。 運営推進会議等に利用者様も参加して地域住民・自治会の方たちに認知症への理解を深めていただく場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々に活動実績・予定、入居状況、事故報告等を行い、意見やアドバイスをいただくサービスの向上に活かしている。 また市や地区の情報を得ることで事業活動に役立てている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、民生委員、自治会長はじめ地域住民の代表他、グループホーム管理者等多方面の有識者が参加されている。会議では入所者の状況、活動報告をし、参加者からの意見や情報をサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業活動で不明な点等市担当者に相談することを心掛けている。市や包括が開催する研修には積極的に参加し、運営推進会議の資料等は直接担当者に持参して顔の見える関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者とは運営推進会議での話し合いの他、研修の案内や事故報告について、情報、アドバイスをもらわれ、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月に一回委員会、六ヶ月に一回研修を定期的に開催して、周知徹底を行っている。 外部からの無断侵入を防止するため玄関は施錠しているが、屋内からは利用者様でも解錠可能な鍵になっている。	身体拘束適正委員会の話し合いを2ヶ月に1回開催されている。事業継続計画に基づき、身体拘束についての研修を年2回実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期的に開催して、話し合われた内容や決定事項等を職員会議で職員に周知し理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度利用を利用されている利用者様もいて後見人の方と連携をしているが、制度自体職員が理解出来ていない部分があり今後の課題としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者様・ご家族に対して説明を行い疑問点等に管理者が十分な説明を行い理解・納得してから契約をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活、面会や電話連絡で意見や要望をお伺いして、職員間で協議し支援・運営に反映させている。	入所の際、利用者、家族等の希望を聞き、可能な限り支援に努められている。面会時や電話連絡の際、希望や要望を聞かれ、運営に反映されている。広報誌「三希堂だより」は個人情報の関係で現在作成されていない。	家族と利用者が集まれる機会を持ち、交流を図られたい。「三希堂だより」の発行を再開されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1～2回の職員会議等で職員からの意見・要望を出してもらい必要であれば管理者と職員が個人面談を行っている。	職員会議やモニタリング会議にて管理者とケアマネージャーは職員からの意見や要望を聞かれ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を取り入れて就業時間、職場環境を整えている。必要であれば個人面談を行い職員の要望を伺っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は月に1～2回行っている。外部研修は職員に対して案内は行っているが参加が少ないため、今後は積極的な参加を促していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では管理者が他事業所と委員会、会議、研修に参加し職員に周知している。運営推進会議には知見を有する方として他法人の事業所管理者に参加していただき情報交換を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人と面談しアセスメントを行い情報収集に努めている。その際、意見や要望をお聞きし出来ることがいつまでも継続して出来るように提案を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り直接ご家族様にお会いして要望をお聞きし、入居時に不安がないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に管理者・ケアマネジャーで協議し、グループホームで行える支援の提案と、他サービスについても説明を行い入居を検討していただくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個人にあった役割を提案して、出来ていることが継続して行えるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との通院や買い物、可能な方は外出の機会を設けている。 日常生活の事等を電話連絡して情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会での交流、なじみの喫茶店等外出しての交流と出来る人に関しては行えている。 一部出来ない方は思い出の場所等にドライブに出たり支援を行っている。	知人や家族の面会の他、利用者の要望で喫茶店への外出や自宅への訪問等、個々に対応され、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が交流を図れるように声掛けを行ったり支援している。 利用者間のトラブル等にならないよう職員が配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された場合でも必要な情報提供を行ったり、相談・面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の会話や行動でその方の嗜好、生活歴を把握しその暮らしに近い環境を提供するように努めている。	入浴の際などに本人のやりたい事や思いを聞かれ、個々に添った支援に努められている。また一人ひとりの生活歴を把握し、馴染みの物や使い慣れた物を使用しながら落ち着いて生活できる様支援される他、日々の会話や行動で思いをくみ取れるように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のこれまでの生活歴等の情報収集を行い、馴染みの家具や寝具などの環境提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に、毎日のバイタルチェック、食事・水分の量、排泄状況や言動・行動を観察してわずかな変化も見落とさないようにしている。今まで出来ていたことでも心身の状態を観察し無理のないように促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定期的にモニタリング会議を行い、収集された情報と現状を照らし合わせて現在の利用者様に最善の計画を作成している。	月に1～2回モニタリング会議を行い、ケアの現状と課題について話し合われている。介護計画は3ヶ月に1度見直しされ、現状に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況をタブレットに記録している。重要な案件に関しては申し送りノート等を活用して情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に合わせてサービスを行っている。体調が悪い場合、主治医に連絡し受診対応や往診依頼を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動の方が来所されたり、週に一回お菓子作りの方が来所されている。個々での外出はあるものの町の催しなどには全体での参加が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医による受診・往診を行っている。緊急時や特変時には主治医に連絡相談することで適切に医療が受けれるように支援を行っている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同伴の受診となっているが、不可能な時には職員が代行され、その結果は電話で伝えられている。また、家族同伴の場合も職員と一緒に同伴されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常でのわずかな変化や異変に対して職員が観察を行っている。変化があった場合、協力体制がある訪問看護の看護師に連絡相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、担当医・看護師・ソーシャルワーカーに対して情報交換・相談を行い、入院時には定期的に連絡を取るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前、管理者・ケアマネジャーが説明を行い理解していただいている。重度化しそうな時点でご家族、主治医、事業所関係者で話し合いを行い、今後のことは決めている。	現在は看取りはされていないが、事業所が対応し得る最大のケアについて説明され、利用者家族、主治医、事業所関係者で話し合われている。また、救急連絡シートとお薬情報を作成されるなどの取り組みに努められている。	看取りについてのマニュアルと研修を実施されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時に対する研修を行い対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防災・消火・避難訓練を行っている。総合防災計画、事業継続計画に基づいて研修・訓練を行っている。	防災、消火、避難訓練が年2回、消防職員の協力を得ながら行われ、1回は垂直避難訓練をされた。また、町内での消防訓練も年2回行われ利用者と共に参加された。備蓄はある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格をそれぞれに尊重して対応するように努めている。 プライバシーに配慮した丁寧な対応を心掛けている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように利用者一人ひとりの人格を尊重し、日々の支援においても丁寧な対応を心がけられていた。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望・訴えに対して自己決定が出来るように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的な生活の流れはありますが、個人のペースを主体として暮らしていただくように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り利用者様ご本人に衣類の着がえ等は選択していただいている。 洗面、整髪等はお声かけさせていただきご自身で出来るよう促している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には配膳や下膳のお手伝いをお願いしています。食器、箸等馴染みのあるものを使ってもらうようにお願いしています。	毎日食事のメニューをボードに書かれる他、配膳や下膳の出来る利用者と共に食事の準備が行われている。メニューは関連の専門の調理担当の職員が作成し、朝は職員が手作り、昼、夜は御飯とみそ汁以外関連の施設から運ばれたものを提供されている。尚、一人ひとりの状態に合わせて提供されるなど家庭的な雰囲気の中で過ごされていた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は量や好み、食事形態を個々に合わせて提供しています。水分も個々の状態に合わせて摂取していただくよう努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方に対しては毎食後、職員が促しを行い歯磨きをしてもらっています。その他の方は毎食後職員と一緒に歯磨きをされています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを記録して、状態にあった案内や見守りを行っている。出来る限りトイレでの排泄が継続して行えるように支援している。	タブレットを利用し個人の排泄パターンを記録し、出来る限りトイレでの排泄が継続出来るよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維が多いものを提供しています。水分量を記録して可能な方には身体を動かしてもらうように促している。便秘気味だと把握した場合、かかりつけ医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人での決められた曜日は設定しているが体調や気分によって臨機応変に対応している。入浴拒否の強い方に対しても無理強いせずタイミングや職員、曜日を変更して対応している。	入浴は週2回利用者の体調や気分によって、臨機応変に午前中に行われている。また、入浴拒否のある利用者に対しては職員や入浴の変更、重度の利用者のシャワー浴など一人ひとりの状態に合わせた支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り職員と一緒に活動されていますが、体調によってはお部屋で休まれるようにしています。就寝時間は特に決めておらず早く目が覚めた方は離床していただくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々にファイリングして、いつでも全ての職員が確認出来るようにしている。薬の変更時は日々の申し送り、申し送り帳で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や嗜好品を把握していて、その人にあった役割の提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日は職員と隣にある公園に散歩に出かけたりしている。家族様や後見人の協力が得られる方に関してはご本人の馴染みの場所、ご自宅等に外出されている。	隣にある緑地公園へ天候が良い日中に利用者と職員は出かけられている。外出はコロナ感染に留意され個人対応で行われる他、利用者家族、後見人の協力が得られる利用者については、馴染みの場所や自宅等に外出されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はご自身で所持されている方もおられ支援を行っていたが、現在は所持できる方が不在でご家族や後見人に協力してもらい買い物をしてもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった場合、職員が間に入り電話連絡できるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は朝昼夕と定期的に清掃を行っている。季節によって壁飾りを変えたり、外出時やイベントの時の写真を飾っている。	施設内は定期的に職員が清掃を行い、心地よく過ごせるよう温・湿度計を設置され生活環境の管理が行われている。また、季節感を感じられるよう壁飾りを変えたり、外出時やイベント時の写真を飾られるなど工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファを設置しており自由に過ごしていただいている。 席は気の合う人同士と一緒に座って頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談して出来る限りご自宅で使い慣れている家具や寝具等を持参していただき使用している。	居室は利用者の好みのTV、CD、家族写真、家具、寝具など馴染みの物を持ち込まれ、利用者が心地よく過ごせるような工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、浴室、トイレにはわかりやすいように掲示を行いご自身での自由に移動出来るように環境整備を行っている。		